

地震災害地での医療救援活動を報告するAMDA派遣看護婦の俣崎さん＝岡山市櫛津の「すこやか苑」で

中米地震の 救援を報告 エルサルバドル震源

AMDA

AMDA（アジア医師連絡協議会）は二十九日、岡山市櫛津の老人保健施設「すこやか苑」で、エル

サルバドル共和国を震源地に十四日発生した地震災害への緊急医療救援活動について報告会を開いた。

AMDAが派遣した日本チームは三人で、十七日からエルサルバドルで二番目に被害の大きかったウスルタン県のオサトラン市で医療活動を展開。十九日から三日間で一日平均約百人を診察したという。

報告会では、二十八日に帰国した看護婦の俣崎希代子さん（三）が「家が崩壊したため外で寝たり、ほこりなどを痛めるなどして、

かせの症状を訴える人が多い。地震のショックで子どもに不安が残り、精神的ケアが必要」と訴えた。

AMDAでは被災者緊急医療支援を行うための募金を募っている。郵便振替で口座番号0125012140709「AMDA」、

通信欄に「エルサルバドル」と記入。問い合わせはアムダイインターナショナル（086・284・7730）へ。

